

## 活動報告6

## 庫富林業グループ／日高町

報告者 中村茂樹さん

われわれのグループは54年の歴史を持っています。構成員8名のうち5名は創設当初から在籍する長老で、そのせいもあって平均年齢は75歳です。

日高町門別地区は総面積4万3000ヘクタールのうち65%が森林です。その1/4を一般民有林が占めています。民有林の68%は天然林ですが、うち森林経営計画があるのは6割ほどで、残りにはありません。計画があっても施業実績のない割合も高く、人工林で46%、天然林で66%が施業外です。森のかなりの面積に人の手が入っていない状態です。

そこで、当グループは微力ではありますが、交付金を利用して役割を担おうと計画を立てました。地元の沙流川森林組合、日高振興局森林室平取事務所に相談し、日高町門別地区の学校法人八紘学園所有の日高農場に付随する41ヘクタールの森林で活動することになりました。平成27年度は1.4ヘクタール、平成28年度は3ヘクタールを整備しました。

不要木の伐採整理のほか、将来的には広葉樹の用材を活用できる森にしたいという目標を立てて学園と3年間の協定を結び、活動を開始しました。

まず境界測量と調査を実施しました。長期間、人の手が入っていなかったためシカの生息密度が高く、作業中にもシカの挨拶を受けたりしました。

平成27年度に着手したエリアでは、ハンノキ、ノ

リウツギといった湿地性の樹種が優占していて、平成28年度に整備したエリアはカシワ林でした。作業に当たり、刈り払い6台・チェーンソー1台を新たに購入しました。

ササを刈って作業道を開削し、不要木を除伐、玉切りにして搬出しました。ツタウルシがかなりの勢いで成長しており、苦労しました。知らずにツタウルシを薪材にしそうになった若手メンバーがいたのですが、ベテランが気づいて止めました。ほかにも長老メンバーから除伐材運搬技術が伝授されるなど、さまざまな森林作業の知恵や経験が伝承されたと思います。

搬出した除伐材18立米は同学園が札幌まで運び、薪としてインターネットで販売したと聞いています。薪の需要が高いことを実感しました。

今後は新生産に加え、広葉樹の用材生産林への転換を進めていきたいと考えています。また、遊歩道を整備するなどして地域住民が里山として活用しやすい環境をつくっていったら、という思いを持っています。

